

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25862258

研究課題名(和文) 社会的活動、ソーシャル・キャピタルと健康との関連に関する研究

研究課題名(英文) Association between social participation, social capital and health

研究代表者

樺山 舞 (Kabayama, Mai)

大阪大学・医学系研究科・助教

研究者番号：50635498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：地域高齢者の健康寿命の延伸を目指して、地域の行政保健師の役割は、1次予防(健康増進)、2次予防(虚弱、つまりフレイル状態にある高齢者の把握と介入)、3次予防(機能の保持、改善、リハビリ)対策を推進する効果的な方法による地域介入が求められている。本研究では、地域在住高齢者のフレイルに関連する要因を、社会的側面を中心に検討を行った後に3年後要介護に関連する要因を、縦断的に要介護の重症度別で検討を行った。さらに地域高齢者のソーシャルキャピタルと健康の関連性について、ソーシャルキャピタルの下位概念に踏み込んで検討を行い、公衆衛生看護活動の介入方向性に対する示唆を得た。

研究成果の概要(英文)：Aging is not only an immediate personal issue but also a salient factor in crucial public policies including for health, pensions, and long-term care. It is critical to develop and strengthen community-based support to sustain Japanese society. We found that the lack of participation in social activities was significantly related to an increased risk to suffer from frailty and subsequently requiring the application of Japanese long-term care insurance. We then assessed the sub-dimensions of the perceptions for the group activity as the aspect of individual social capital by factor analysis, and investigated the associations between the detected sub-dimensions of individual social capital and health among community-dwelling older Japanese. As for primary/secondary prevention for old populations, public health nurses are expected to develop and utilize the social capital in health promotion interventions in Japan.

研究分野：公衆衛生看護学、介護予防、生活習慣病予防

キーワード：介護予防 社会参加 ソーシャルキャピタル 地域在住高齢者

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、生活習慣及び社会環境の改善を通じて、全ての国民が共に支え合いながら希望や生き甲斐を持ち、高齢期に至っても健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現し長寿を全うできるよう、生涯にわたる健康づくりを総合的に推進することが、わが国で目指されている。

2006年、介護保険制度は介護予防に焦点を当てたものに改正され、予防重視型システムの確立に向け地域包括支援センターが整備された。これに伴い、地域の行政保健師の役割は、1次予防(介護予防の知識の普及など健康教育、健康増進)2次予防(虚弱、つまりフレイル状態にある高齢者の把握と介入)3次予防(機能の保持、改善、リハビリ)対策を推進するとともに、より効果的な方法による地域介入が求められるようになった。中でも要介護ハイリスク者である2次予防事業対象者をスクリーニングする方策として「基本チェックリスト(厚生労働省作成)」が活用されている。この基本チェックリストに該当した2次予防事業対象者の多くは「フレイル」状態にあると考えられている。フレイルは、多側面の要因が重なり合っていることが特徴であり、多くの高齢者はこの段階を経て要介護状態へ移行することから、地域において介護予防施策を展開する際にはフレイルの概念を基にして介入することは重要である。

介護予防とあわせて、社会環境の質を高め、コミュニティ機能を再生し、人々の健康を増進する要としてソーシャル・キャピタル(Social capital: 社会関係資本)が注目されている。我が国の「今後の地域保健体制のあり方」検討においても、地域のソーシャル・キャピタルの活用を通じた健康なまちづくりの推進が重要な課題として取り上げられている。ただし、ソーシャル・キャピタルの把握については未だその測定方法や構造、下位概念は十分に確立されていないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域における効果的な介護予防の推進を目指して、要介護に移行する手前のフレイル状態および後年の要介護状態に関連する要因を明らかとすることである。さらに地域高齢者の社会活動に関する個人レベルのソーシャル・キャピタルの下位概念に踏み込んだ検討を行い、個人レベルのソ

ーシャル・キャピタル側面の因子を明らかとすると、それらと健康との関連性を明らかとすることにより、公衆衛生看護活動の展開方法や地域保健対策を検討するためのエビデンスとすることである。

3. 研究の方法

【研究1】まず、超高齢社会のフロントランナーである我が国における地域での介護予防対策推進の重要性と保健師の役割についてレビューした。地域高齢者の健康寿命の延伸を目指して、どのような介護予防活動が求められているか、公衆衛生看護活動の展開の視点より概観したものである。

【研究2】地域在住高齢者のフレイルに関連する要因を、社会的側面を中心に検討を行った後に、3年後要介護に関連する要因を縦断的に要介護の重症度別で検討を行った。対象者は、H市内に居住している、「要支援、要介護認定を受けていない」、「65歳以上」の条件を満たす住民である。方法は自記式郵送調査であり、H市の介護二次予防事業対象者把握事業の一環として実施した。

【研究3】地域高齢者のソーシャルキャピタルと健康の関連性について、ソーシャルキャピタルの下位概念に踏み込んだ調査検討を行った。対象者は、H市において住民基本台帳(2013年10月)より層別無作為に抽出し、郵送による無記名自記式質問紙調査を行った。調査項目は基本属性、健康関連指標(疾患有無、SF-36v2)、社会的活動における個人レベルのソーシャル・キャピタル等である。対象者が活動する会や組織に関するソーシャル・キャピタルの要因について探索的因子分析を行った後、健康関連指標を従属変数とし、抽出された因子を独立変数として重回帰分析を行った。

4. 研究成果

研究1では、我が国における地域での介護予防対策推進の重要性と保健師の役割についてレビューし、国際雑誌へ報告し、国内外への知見の発信を行った。研究2の地域在住高齢者のフレイルに関連する要因の検討の結果では、性別で罹患疾患の割合が違うことが明らかとなり、今後の介護予防施策を展開するうえでは、例えば男性では男性には壮年期からの生活習慣病の予防に対して介護予防までを見据えて重点的に介入し、女性には骨関節疾患を予防するために前期高齢時期における知識普及・啓発や骨筋力を維持する運動機会の提供を行うこと等が重要であることが明らかになった。また、ソーシャル・

キャピタルの指標である社会参加や就労状況、地域の居住年数、また独居（男性のみ）が独立してフレイルと関連することが明らかになったことから、ソーシャル・キャピタルの充実を目指した地域づくり推進が重要であることが示唆された。また、フレイル関連要因の視点から多面的に縦断的に3年後の要介護認定に関連する要因の検討を行った結果、軽度要介護状態には多種の要因が関連しており、フレイル予防を通じた多角的なアプローチが重要であること、また性別により要介護状態を予測する因子が異なるという知見が得られた。地域における介護予防と健康な町づくり推進を展開する公衆衛生看護活動へ応用できる研究結果が得られた。

研究3では、地域高齢者の社会活動に関する個人レベルのソーシャル・キャピタルの下位概念に踏み込んだ検討を行い、個人レベルのソーシャル・キャピタル側面の因子を明らかとして、それらと健康との関連性を明らかとした。従来からソーシャル・キャピタルについては健康とのポジティブな側面が強調されてきたが、さらに下位概念を検討することで、ソーシャル・キャピタルの側面によってはネガティブな関連性も明らかとなった。本研究により、より健康な町づくり推進に貢献しうるソーシャル・キャピタルの醸成を通じた公衆衛生看護活動に対する示唆を得ることができた。

研究の成果については、国際雑誌への投稿掲載とともに、国内外の学会にて成果報告を複数回実施した。また、現場の地域包括センター職員や自治体にて報告会を行った。本研究結果は介護予防を見据えた健康な地域づくりを推進し健康長寿社会を実現するための貴重な知見の一つとなりうると考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 3件)

1. Kabayama M, Watanabe C, Ryuno H, Kamide K. Positive and negative associations of individual social capital factors with health among community-dwelling older people, GGI, 2017 (in press)
2. Kabayama M, Mikami H, Kamide K. Factors associated with risk for assisted living among community-dwelling older Japanese. Arch Gerontol Geriatr,

65:63-69, 2016

3. Kabayama M, Kamide K, Sakakibara K, Hayakawa K. The role of public health nurses in Japanese long-term care prevention projects in the community. J Nursing Care 3:166:2014.

〔学会発表〕(計 12件)

1. Kabayama M, Mikami H, Kamide K. Population-based Longitudinal Study Using a Multidimensional Checklist to Predict Independence Loss. 2016 GSA Annual Scientific Meeting. Nov.16-20, New Orleans USA, 2016
2. 濱田真衣, 樺山 舞, 神出 計: 高齢者の地縁組織参加・参加主体性と主観的健康観の関連 第75回日本公衆衛生総会 2016年10月26~28日 大阪
3. 樺山 舞, 渡邊智絵, 龍野洋慶, 神出 計: 都市部高齢者の社会活動におけるソーシャルキャピタルと健康の関連 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会 2016年1月23, 24日 東京
4. Kabayama M, Mikami H, Kamide K. Factors contributing to Functional Decline among Community-Dwelling Older Adults 6th ICCHNR, August 19-21, 2015 Seoul, Korea
5. 樺山 舞, 三上 洋, 神出 計 都市部高齢者の介護二次予防事業該当判定に関する男女別の要因(第2報) 第57回日本老年医学会学術集会 2015年6月12~14日 神奈川
6. 樺山 舞, 神出 計: 地域在住後期高齢者の客観的身体活動量と社会活動の実態 第18回日本地域看護学会学術集会 2015年8月26, 27日 神奈川
7. Kabayama M, Kamide K: Factors Contributing to Functional Decline among Community Dwelling Older Adults, International Conference on community health nursing research, August 19th-21th, Seoul Korea
8. Watanabe C, Kabayama M, Kamide K: Factors Related to Quality of Life in Mental Aspects in Persons Joining to Volunteer Groups as the Social Capital The Gerontological Society of America 67th Annual Scientific Meeting November 5-9 Washington, DC, 2014
9. 樺山 舞, 渡邊智絵, 龍野洋慶, 神出 計: 都市部地域住民の社会参加活動の実

態 - ソーシャルキャピタルの観点から
- 第3回日本公衆衛生看護学会学術集
会 2015年1月11日 神戸

10. 渡邊智絵, 樺山 舞, 神出 計: ボラン
ティア団体会員のもつソーシャルキャ
ピタルと主観的幸福感との関連: 地域保
健活動における重要性 第17回日本地
域看護学会学術集会 2014年8月2日
岡山
11. 樺山 舞, 三上 洋, 神出 計: 介護二
次予防事業該当判定に関連する要因の
検討 第56回日本老年医学会学術集会
総会 2014年6月13日 福岡
12. 渡邊智絵, 樺山 舞, 神出 計: ソーシ
ャルキャピタルとしてのボランティア
団体を対象とした精神的QOL関連因子の
検討 第56回日本老年医学会学術集会
総会 2014年6月13日 福岡

〔図書〕(計1件)

1. 樺山 舞(分担執筆) 未来共生学 Vol.4
大阪大学未来戦略機構第5部門未来共
生イノベーター博士課程プログラム発
行 Vol.4 465頁, 2017年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樺山 舞 (KABAYAMA MAI)
大阪大学・医学系研究科・助教
研究者番号: 50635498

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()